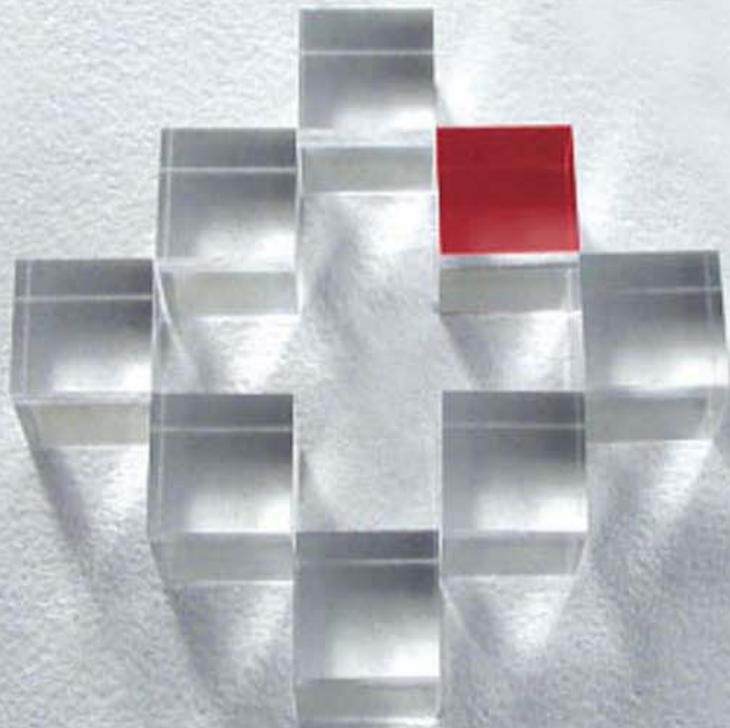


川崎幸病院新築計画 事業概要



〈資料編〉



川崎幸病院

川崎幸クリニック

ラゾーナ

ミュージアム

JR川崎駅

京急川崎駅

国道1号線 (第二京浜)

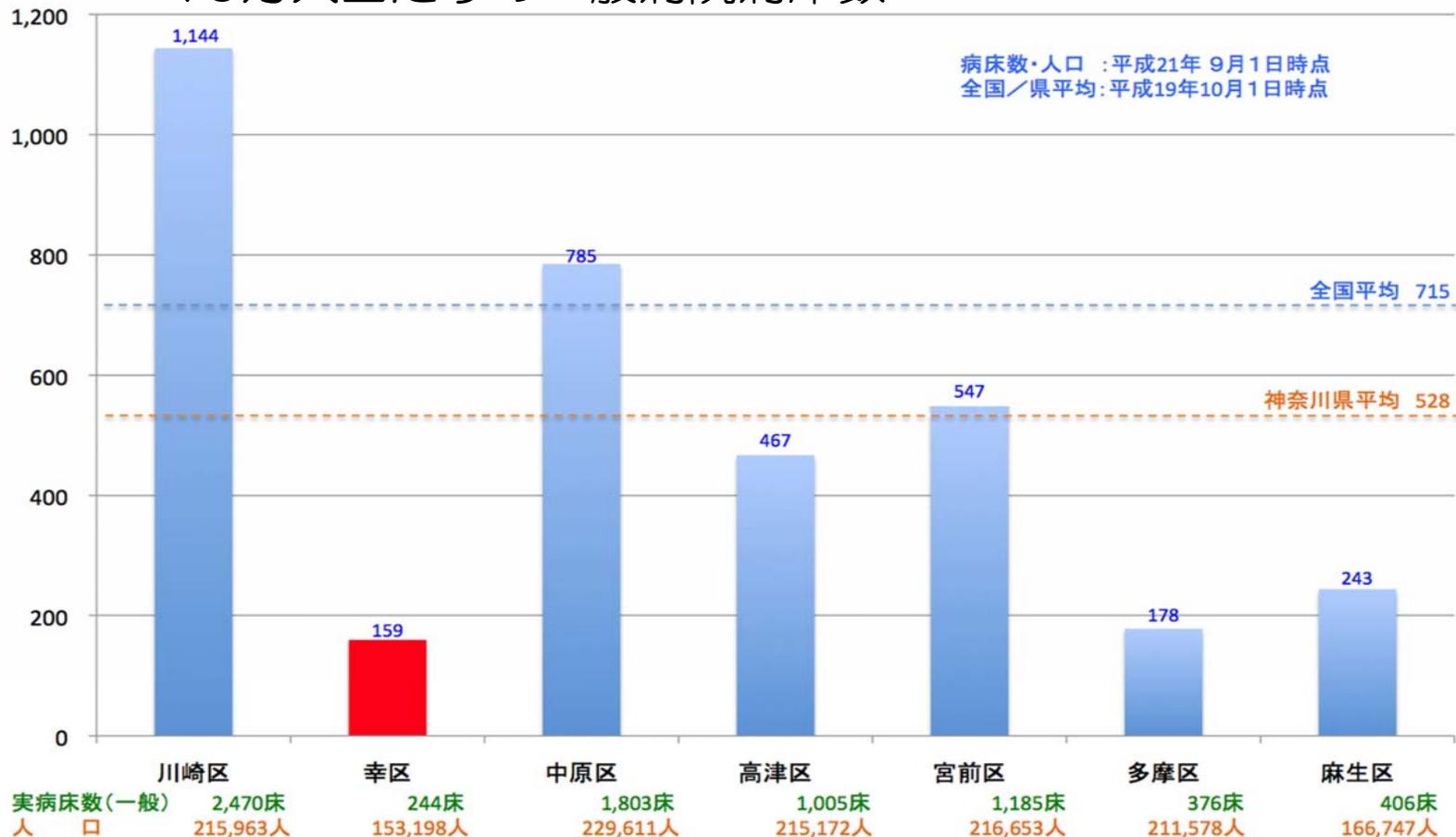
尻手駅

新病院

①救急車を断らない病院

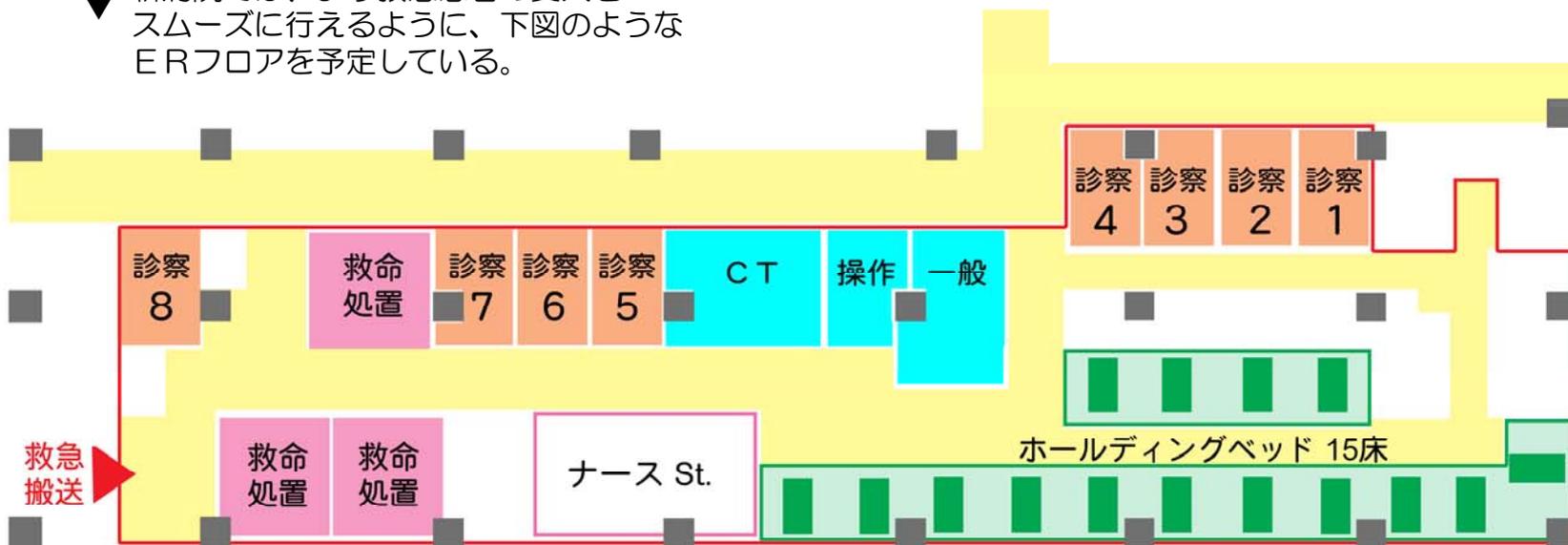
人口10万人当たりの病院の一般病床数は神奈川県は全国でも最下位に近い。
更に幸区は、川崎市の7区の中でも最下位であり、地域ニーズに応える為には実稼働できる病床数の確保につとめるとともに、スムーズな受入を可能にするER態勢の強化が重要と考える。

[床/10万人] ■ 10万人当たりの一般病院病床数



現・川崎幸病院では、川崎／横浜市を中心に多くの救急搬送を受け入れている。平成20年度休日及び時間外の救急搬送の受入件数は3,568件と川崎市内では市立川崎病院に次いで2位であるが、入院病床1床当たりの救急受入は群を抜いている。救急は地域医療の要であり、当院では救急搬送を極力受け入れる姿勢を貫いてきた。しかし、外来での初期治療後、引き続き入院治療が必要な場合、院内の適応病床が無く、やむを得ず転送先を探すこともしばしば発生している。現・川崎幸病院は203床であるが、川崎幸病院中原分院の62床を併せ、新病院は265床とし、より効率的な病床運用を行うとともに、救急の受け入れ窓口となるERは、広いエリアと充実した設備を計画している。

▼ 新病院では、より救急患者の受入をスムーズに行えるように、下図のようなERフロアを予定している。



②特に、4つの医療センターに関しては、地域で最高の医療水準を実現する病院



③地域の災害医療の中心となる病院

■免震構造の採用

